**第2学年1組　算数科指導案**

1. 題材名　はこの形をしらべよう
2. 本時の学習（4／5時間）

（1）目標

　○ひごと玉を用いて箱の形やさいころの形を構成する活動を通して、箱の構成要素である辺と頂点の数を捉えることができる。

（数量や図形に対する知識・理解）

（2）展開（○は指導上の留意点、評は評価を表す。）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点 | 時間 |
| 1　前時の学習内容を振り返る。  2　本時のめあてをつかむ。  はこをつくって、ちょう点とへんの数をしらべよう  3　ひごと玉を使用してサイコロ型と箱型の2つの箱を作り、それぞれで使用したひごと玉の数を調べる。  4　ひごと玉の数を確認する。  5　本時で学習したことをまとめる。  6　次回への見通しをもつ。 | ○前時で使用した箱を見せることにより、前回やった活動内容を思い出せるようにする。  ○箱には面以外にも特徴があるということを伝え、前時の学習内容と本時の学習内容がつながるようにする。  ○頂点と辺について振り返るとともに、立体の頂点と辺がどこであるのかを確認し、次の活動が取り組みやすくなるようにする。  ○箱を作り、ひごと玉の数を調べることによって、辺と頂点の数を調べることができると確認し、活動をする意味を理解して取り組めるようにする。  ○ひごと玉を使って箱を作るやり方を書画カメラに写しながら実演し、イメージをつかめるようにする。この際、完成までは実演せず、玉と2辺をつける程度にしておく。  ○活動の終了時間を伝え、見通しをもって活動に取り組めるようにする。  ○ひごと玉の数を記入するワークシートを配布し、スムーズに調べ活動が進むようにする。  ○グループで活動を行い、相談しながら活動ができるようにする。  ○机間指導を行い、うまくいかない様子のグループには箱を見てみるように伝え、子どもがどことどこが同じ長さなのかなど、ヒントを得られるようにする。  ○子どもから数を聞くだけでなく、箱を見せながら数えて確認することで、数え間違えていたグループの子どもも目で見て確認できるようにする。  ○全体でワークシートに書いた意見を共有し、答えを確認できるようにする。  評　箱の構成要素である辺と頂点の数を捉えている。  （数量や図形に対する知識・理解）  ○活動を通して、どんなことが分かったのかを尋ねることで、子どもたち自身でこの活動を振り返り、まとめることができるようにする。  ○次回はこのまとめをするということから、面や頂点、辺について自主的に振り返ろうとする気持ちがわくようにする。  ○ワークシートはノートに貼るように伝え、やったことが後から見て分かるようにする。 | 3  5  17  7  10  3 |

1. 備考　在籍児童数　35名
2. 板書計画

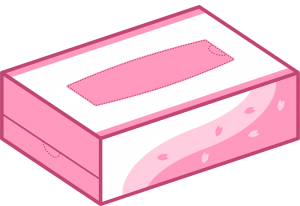
|  |
| --- |
| 1／26  まとめ  　・どのはこもちょう点が8つ、へんが12本  　・はこがた…へんが　3しゅるい→4本ずつ  　　　　　　　　　　　2しゅるい→4本と8本  　・サイコロがた…へんが１しゅるいで12本  はこをつくって、ちょう点とへんの数をしらべよう。  も  　　　　①はこをつくる  　　　　②数を書く  **１０：０７　まで** |

算数「はこの かたちを しらべよう」

**はこマスターになろう**

２の1　　ばん なまえ





**同じ ながさの ひごを 何本ずつ つかいましたか？**

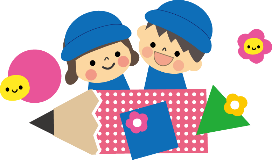
①1ばん ながいひご・・・　　　　　本

②つぎに ながいひご・・・　　　　　本

③1ばん みじかいひご・・・　　　　　本

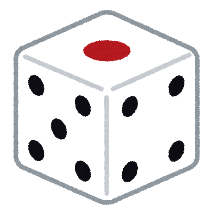
**ひごを ぜんぶで 何本 つかいましたか？**・・・　　　　　本

**玉を いくつ つかいましたか？**・・・　　　　　こ



**同じ ながさの ひごを 何本 つかましたか？**・・・　　　　　本

**ひごを ぜんぶで 何本 つかいましたか？**・・・　　　　　本

**玉を いくつ つかいましたか？**・・・　　　　　こ